

# 「One Company, One Athlete」

## ～トップ・アスリートのための支援説明会～

10月14日、「One Company, One Athlete」と題し、財団法人日本オリンピック委員会（以下JOC）から経済同友会会員に対し、トップ・アスリートのための支援説明会が開かれた。会員企業やメディアを含め102名が出席し、JOCによる支援説明やトップ・アスリート3名による企業サポートの必要性が語られた。



### 前原金一副代表幹事・専務理事 説明会の役割と意義を述べる



開会挨拶では、JOCの市原則之専務理事が「政治や経済を超えて世界が交流できるのがオリンピックであ

る。本日は、国際競技力の向上のためのトップ・アスリート支援事業を説明する機会をいただき、心から感謝したい」と述べた。続いて、前原金一副代表幹事・専務理事が「バブル経済崩壊以降、企業は、厳しい経営環境の中で、保有するスポーツクラブの休・廃部という、苦渋の決断があったと推察する。しかし、企業が

スポーツ界に何ができるかをあらためて考え、行動を起こした。今回の試みが、トップ・アスリートの生活環境の安定に寄与するだけでなく、企業活力の向上にもつながる第一歩となることを大いに期待している」と述べた。最後に、文部科学省の布村幸彦スポーツ・青少年局長が、スポーツ立国の実現に向けて、企業との連携を強化していきたい意向を示した。

### アスリート支援の趣旨説明 トップ・アスリートと企業のマッチング

JOCの荒木田裕子理事から「JOCゴールドプラン委員会スポーツ将来構想プロジェクト」概要として、「アスリートを取り巻く日本のスポーツ環境の実態」について説明があった。

荒木田氏によると、企業のスポーツに対する貢献度は大きく、夏のオリンピックでは出場選手の60%、今年の冬季オリンピックでは70%が企

業の支援を受けていたという。

しかし、先の見えない景気低迷で、スポーツクラブの休・廃部が相次いだ。荒木田氏は、「このままでは企業の支援が後退し、不十分な環境のために練習時間の確保にさえ苦勞する状況に拍車がかかる」と懸念を表明。「ロンドンやソチに向け、多くの困難を抱えながらがんばっているアスリートがたくさんいる。このようなアスリートの夢の実現のため、ぜひ力を貸してほしい」と参加企業に呼びかけた。

続いて、JOCゴールドプラン委員会委員の原田尚幸氏が、「選手支援スキーム「アスナビ」について説明。

「企業とトップ・アスリートのあり方は、“広告塔”だけでなく“社員としての雇用”も含めて多様化している。支援企業のメリットは社員の一体感の醸成、地域貢献活動といったCSR活動のアピールなどさまざまである。また、支援費用が高額なのでは？といった情報不足による誤解も多い。そこで、企業側のニーズの集約やアスリートの情報提供など、企業とアスリート双方の中間支援機能として“アスナビ”がある。アスリートと企業のマッチングを行っていきたくて抱負を述べた。

アスナビを運営するJOCキャリアアカデミー事業ディレクター八田茂氏は、アスリート31名のプロフィールが書かれたエントリーシートなどについて説明し、企業へ協力を呼びかけた。



左から、八田氏、原田氏、荒木田氏

### 安心して金メダルを目指したい

競技では、勝敗の記録やメダル獲得など「結果」が残ります。しかし、競技生活が終わった後の展望がなければ、これまでの努力や経験が何にも生かせず、一生懸命やってきたことがすべて無駄になってしまうのではないだろうか。これが今一番不安に感じていることです。

企業に就職するという事は、これまでの経験を生かしながら社会に貢献できる場ができ、将来への安心感にもつながります。競技を続けていく上でも、人間関係が広がり、応援などの精神的なサポートもあると思います。けがなどで不安になっても、応援してくれている人たちに恩返ししたいという気持ちが生まれ、モチベーションのアップにもつながるだろうと思います。

僕が就職活動を始めたのは大学4年生、世界大会が終わった昨年9月ごろです。以前から興味があったIT企業やスポーツ・マネジメントの会社を回りました。しかし、まだ決まっていません。就職して経済的な地盤をしっかりと固め、次のロンドンで金メダルを目指したいと思っています。



**古賀 淳也 氏** 水泳・競泳

2009年世界選手権100m背泳ぎで日本新記録をマークし金メダル。2010年バンバンフィック選手権50mでも金メダル。入江陵介とともに日本の背泳ぎ界を牽引する。

### 社員だから競技に集中できた

私は、コマツに正社員として週3回出社する生活を続けてきました。試合での応援もそうですが、仕事でも各部署から温かい言葉をかけてもらい、会社にもっと応えたいという強い気持ちで柔道に取り組むことができました。また、社内では競技生活後のセカンドキャリアを見据えて、さまざまな仕事を教えてもらい、とても有意義に過ごすことができました。今年の9月に引退を表明し、今は各地で柔道教室などの社会貢献活動に参加したりしています。引退後も会社で仕事があるというのは、とても幸せなことです。

企業に所属することで、自分自身、人間的に成長できましたし、柔道のパフォーマンスの向上にも役立ちました。オリンピックや世界大会などプレッシャーのかかる場で活躍しなければならぬ選手にとって、自分を生かせるもう一つの場があるということは、競技以外の不安を取り除いてくれることにもなり、より競技に集中できるようになるのです。

今、柔道の指導者になるための勉強をしています。今後もコマツ柔道部に所属し、コーチとして後進の育成に力を注ぎたいと考えています。



**谷本 歩実 氏** 柔道 63Kg 級

“女三四郎”の異名を持ち、アテネ、北京とオリンピック2大会連続オール一本勝ちで金メダルという柔道史上初となる快挙を成し遂げた。2010年9月、引退を表明。

### アスリートも仕事を学ぶ意識が大切

冬の競技は半年しか日本にいたることができません。数社のスポンサーから資金を提供いただき、海外遠征するという生活が現状です。左膝に大けがをして長期の戦線離脱を余儀なくされたとき、すべてのスポンサー契約を打ち切られたことがあります。しかし、この挫折の経験から「協力してくださった皆さまに、何がお返しできるか」「結果だけでなく、自分自身を愛していただけるか」ということを真剣に考えるようになりました。

その後、また右膝に大けがをしてしまいました。スポンサーからは“君が夢を達成する瞬間を共有したい”と言われ、その言葉が心の支えになり、けがを克服することができました。

現在、竹村総合設備スキークラブに所属し、数社とスポンサー契約を結んでいます。会社では、皆さんのレベルに少しでも追いつこうと、仕事の現場に出たり、会議に参加したりしています。自分の経費がどこから出ているか、その価値も考えながら、企業の支援を受けている一人のアスリートとして、会社を理解することが大切だと思っています。



**皆川 賢太郎 氏** スキー・アルペン

トリノオリンピックでは4位入賞。日本人としては50年ぶりの快挙を果たす。その後右膝の前十字靭帯を損傷するも見事に復帰し、バンクーバーオリンピックの代表となる。

JOC キャリアアカデミー事業についての詳細は <http://www.joc.or.jp/ntc/careeracademy.html>

トップ・アスリート支援についてのお問い合わせ先：JOCキャリアアカデミー事業

**E-mail** career@joc.or.jp **FAX** 03-5963-0356  
※受付時間は月曜～金曜の午前10時から午後6時まで